

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2012-255243

(P2012-255243A)

(43) 公開日 平成24年12月27日(2012.12.27)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード (参考)
A 4 1 D 3/04 (2006.01) A 4 1 D 3/04 M 3 B 0 3 1

審査請求 未請求 請求項の数 9 書面 (全 5 頁)

(21) 出願番号	特願2011-142270 (P2011-142270)	(71) 出願人	501385134
(22) 出願日	平成23年6月9日 (2011.6.9)		関根 和夫
			埼玉県川越市大字上老袋492-1
		(72) 発明者	関根 和夫
			埼玉県川越市大字上老袋492番地1
		(72) 発明者	関根 貴史
			埼玉県川越市大字上老袋492番地1
		Fターム(参考)	3B031 AA14 AB02 AB12 AC08

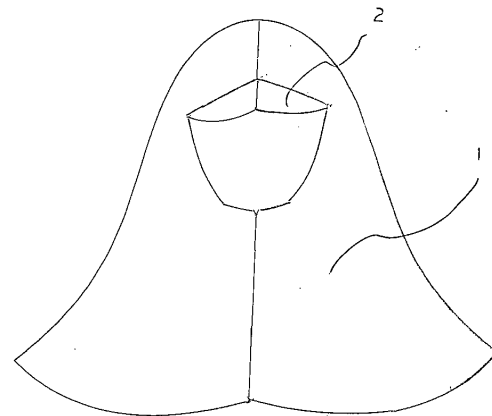
(54) 【発明の名称】 小さく薄くたためて、携帯しやすい、被れるアンブレラ

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 雨の日雨具を使用する時、あまり手を使わないで利用できるもので、使用を止めた時、持つのに邪魔にならず携帯に便利な、雨具をつくる。

【解決手段】 弾力性の有る細長い板を、笠の縁より内側に、左右対称に貼り付けて、傘の骨として使用し、被った時傘のように開く形にして、上部はポンチョのフードのような形で、下部は傘を開いた形の、被れるアンブレラとする。細長い板は、たたんでしまう時持ち運びやすい、小さく薄くたたんで収納できる配置にする。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

弾力性の有る細長い板を、貼り付けて使用する、小さく薄くたためて、携帯しやすい、被れるアンブレラ。

【請求項 2】

弾力性の有る細長い板を、傘の骨として使う、請求項 1 の、被れるアンブレラ。

【請求項 2】

弾力性の有る細長い板を、複数貼り付けて傘になる部分の生地が垂れないようにする為に、傘の骨として使う、請求項 1 の、被れるアンブレラ。

【請求項 3】

水を浸透させない材質の帽子に、下の方は傘のように開く形に作る、請求項 1 の、被れるアンブレラ。

【請求項 4】

傘の柄を無くした、請求項 1 の、被れるアンブレラ。

【請求項 5】

雨具の中心に体の位置が来る、請求項 1 の、被れるアンブレラ。

【請求項 6】

複数の細長い板を、笠の縁より内側に、左右対称に貼り付けて、被った時傘のように開く形にする、請求項 1 の、被れるアンブレラ。

【請求項 7】

細長い板は、たたんでしまう時、小さく収納できる配置にする、請求項 1 の、被れるアンブレラ。

【請求項 8】

前掛けのようなものを、別に作る、請求項 1 の、被れるアンブレラ。

【発明の詳細な説明】

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、コンパクトにたためて携帯に便利で、そして、置き傘として机の隅に入れて置いても場所をとらず。被って着用するのも簡単で、傘の様に手で持たなくてよいので、両手が空くので軽作業もすることが出来、風が強くなければ濡れることも少なく、梅雨時の蒸す時も比較的快適に着用出来るものを作り。雨が吹き付ける時濡れるのを防ぐためものと、使わないときに、収納し携帯しやすいケースを、一つもので作る。

【背景技術】

【0002】

従来の傘をさす時には、必ず傘を片手で持って差します。風の強い雨の日には、両手で持って差さなければならなくなります。又、ポンチョ等のレインウェアは、電車通勤などでは、着るとき、脱ぐとき、たたんむときに手間がかかります。そして、梅雨時の湿気があって蒸し暑い時など、着用したとき不快感が伴うもので、それぞれに、欠点がありました。

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

従来の傘においては、雨の日に傘を差す場合、片手は差すのに必ず使い、必ず傘を持つためにとられてしまいます。そして、電車などに乗っている時、傘が邪魔になります。又、折りたたみ傘の場合、たたむ時手間がかかります。雨の日雨具を使用する時、あまり手を使わないで利用できるもので、使用を止めた時、持つのに邪魔にならず携帯に便利な、雨具をつくる。

【0004】

また、梅雨時の蒸した日などに、ポンチョ等のレインウェアを着用する場合、被って不

10

20

30

40

50

快に感じます。このような時でも、快適に利用できる、雨具をつくる。

【0005】

さらに、置傘にするにも、携帯するにも嵩張らないようにコンパクトに収納できるような、雨具をつくる。

【0006】

そして、雨具を使用するとき、簡単に開いて被れる雨具を作る。

【0007】

また、雨具をたたんでしまうとき、即座に簡単に折りたためる構造の雨具をつくる。

【0008】

さらに、吹き付けるような雨でも、腹から下がびしょ濡れにならないような雨具をつくる。

10

【0009】

また、携帯する時や、置き雨具として仕舞って置く時の為に、収納するためのケースを別につくる。

【0010】

そして、雨が吹き付ける時に、腹の部分から下が濡れるのを防ぐものと、収納するためのケースを使って兼用で使えるように作る。

【課題を解決するための手段】

【0011】

上記目的を達成するために、本発明における、小さく薄くたたんで持ち運びやすい、被れるアンブレラは、上部はポンチョのフードの様な形で、下部は傘を開いた形になる。

20

【0012】

被れるアンブレラを、携帯しやすくする為に、材質は適度に柔らかくて薄いビニールでつくる。

【0013】

被れるアンブレラを、広げたり、たたんだりする時の作業を、簡単にできるようにする為、傘の骨の役目をする、弾力性の有る薄い板を、左右対称に入れて、下の方が開く形にする。

【0014】

そして、下の方を開く形にするものは、合成樹脂で出来た、弾力性の有る細長く加工した薄い板を使用する。

30

【0015】

また、弾力性の有る細長く加工した板は、雨の当たる部分の裏側に、数か所接着剤を使って貼り付ける。

【0016】

細長く加工した板は、開くと、前後の径よりも長い形の、楕円形になるように左右対称に取り付ける。

【0017】

収納するためのケースは、長方形の雨の浸透しない材質でつくり、前掛けを、首や肩から下げられるようにつくる。

40

【発明実施の形態】

【0018】

雨が降らないときは、左右対称に貼り付けた板を重ね合わせて、小さくたたみながら、傘及びフードで丸めこむ。

【0019】

そして、小さく丸めた雨具は、収納するための前掛けに包んで、置き雨具として、引き出しに入れておき、雨模様のときや、突然の雨に遭いやすい季節は、持ち歩くと良い。

【0020】

また、雨に出遭ったら、前掛けに包んである、雨具を取り出し、広げて被り、乗物に乗るときには、丸めて前掛けで包む。

50

【0021】

さらに、雨が激しく降ってきたときには、収納用の前掛けを、吹き付ける方へ下げて、手を胸の所へ上げて、手荷物などは抱え込むようにすると良い。

【発明の効果】

【0022】

本発明は、以上説明したように構成されているので、以下に記載されるような効果をそうする。

【0023】

傘の柄の代わりを、被る人がするので、雨具の中心に体がある形なので、雨具が小さくても、濡れることが少ない。

10

【0024】

柄が付いてないので、両手が空くので、簡単な手作業くらいできる。物も両手で運べて、合羽より物を濡らすことが少ない。

【0025】

梅雨時の蒸れる時期でも、歩くと雨具が上下動して、空気が下から上に抜けるので、レインウェアにない着用感がある。

【0026】

雨具を包む為の前掛けを、セットでつくるので、少々雨が吹き付けても、小さい割に濡れない、その上、傘のように骨が折れることがない。

20

【0027】

傘のように柄がないのと、骨の代わりに、薄い板を使うので、より軽量でコンパクトになる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の正面図である。

【図2】 本発明の側面図である。

【図3】 本発明右内側、弾力性のある薄い板の、貼りつけ位置図である。

【符号の説明】

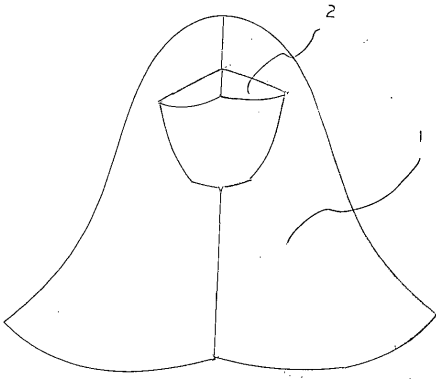
1、雨具本体

2、つば

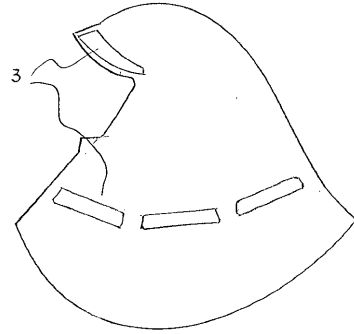
3、薄い板

30

【図 1】



【図 3】



【図 2】

